

## 第10回全日本高校模擬国連大会 書類課題講評

第10回全日本高校模擬国連大会選考統括 太田篤  
第10回全日本高校模擬国連大会会議総監督 神保真宏

今年度も全日本高校模擬国連大会に大変多くの参加申し込みをいただきました。心より御礼申し上げます。本年度の採点対象チームは202チームでございました。本年度も昨年度と同様に、10人の選考員のもとで分担し、選考課題に対する採点を行いました。以下、課題全体に関する出題テーマを説明したのち、選考課題の問題別に講評を述べたいと思います。

### 全体概観

今回の選考課題では「日本の外交政策」を全体テーマとして掲げました。

昨年国連創設70周年を、そして今年は日本の国連加盟60周年を迎えたほか、昨年度末には京都議定書にかわる新たな気候変動問題に対する国際的枠組みが合意に至るなど様々な分野で節目に当たったことを踏まえ、我が国の外交という視点から国際問題に切り込んでいく良い機会となると考えたためです。

【2】問2に関しては「日本の外交」とは直接には関連しない出題となっておりますが、日本の安保理改革案について考える上で、それとは異なる意見を理解し、その意図を探ることは今後どのようにして自国の改革案を推進していくかを知る手がかりとなるでしょう。こうした考えは日本の十八番である「足して2で割る」外交の重要な要素を占めるはずです。

### 設問別講評

#### 【1】

(問題文) 国家間交渉において、環太平洋パートナーシップ (TPP) 協定交渉など合意形成 (異なる利害を持つ複数の主体が協議を通じて妥協点を見出すこと) が必要な場面が多々ありますが、これは日常生活においても同じことが言えるでしょう。あなたが合意形成にあたって重要だと考えることは何ですか。具体的な議論を想定しながら説明しなさい。(250 words 以内)

実際に経験した議論を挙げ、その成功体験または反省点をもとに合意形成に重要な要素を抽出している答案が多く、限られた語句数でわかりやすく伝えられるかが評価を分けました。ただし、この問題では合意形成が「異なる利害を持つ複数の主体が協議を通じて妥協点を見出すこと」と定義されている以上、互いに妥協することが重要だという主張のみの答案

では問題に答えていることにはならず、設問の指定にそぐいません。

## 【2】

### 問1

(問題文) 現在、日本が主張している安保理改革案について、以下の〈資料1〉〈資料2〉を要約しなさい。ただし、なぜそのような安保理改革が必要だと考えているのかを明らかにしながら説明すること。(600字以内)

資料の要約問題であり、与えられた資料の情報をいかに問題の要求に沿う形で再構成できるかが鍵となります。

日本の示す安保理改革案を説明することはもちろん、改革案を示す以上は、現在の安保理の現状、課題がどこにあるのかをはっきりとさせておくことが必要です。また安保理改革の必要性についても、日本が常任理事国入りすることによって得られるメリットを提示するだけでなく、「どうして常任理事国を拡大することが必要なのか」「どのような国が新常任理事国に相応しいのか」という説明をしてはじめて十分な記述となります。

提示した資料はすでに短くまとめられており理解に難くないものですが、「日本の」安保理改革案に特化したものではないため答案作成の際に注意する必要があります。この点に関しては多くのチームがきちんと対応し日本の改革案を中心に答案を作成していました。一方で、安保理の現状や必要性のどちらかを欠いている答案が多く、高評価を獲得したチームはごく一部にとどまりました。

### 問2

(問題文) 以下に挙げた国は、安保理改革について日本とは違う立場をとる国の一部です。1か国選び、なぜそうした立場をとっているのかを明確にしながら、その国の視点から、安保理改革への考えを述べなさい。なお、どの国を選んだのかわかるように解答すること。(600字以内)

[選択肢語群] アメリカ合衆国、イタリア、エジプト

この設問は、安保理改革に関して多様な意見が存在することを認識してもらおうという意図で作問いたしました。模擬国連の会議準備において必要とされるリサーチ力が試される問題です。選択肢となった3カ国は地域的衡平性や主張の多様性を考慮し選びました。

出題者としてはアメリカ、イタリア、エジプトの順に各国の考えをまとめやすいだろうと想定しておりました。アメリカは言うまでもなく日本外交の中心に位置付けられる国家であり、それだけ国内の関心も高く資料も豊富な上に、現常任理事国として本音もわかりやすい

国です。イタリアはアメリカほどではないにしろ UFC（コーヒークラブとも）の盟主として有名であり、本音と建前の区別まで含めた資料を見つけることも難しい国ではありません。しかしエジプトはアフリカ連合（AU）の一員として G4 案に似た共通の改革案を掲げながらも、地域内での国力バランスのために腹に一物を抱えた国であり、AU 案をベースに推測すると迷宮入りしてしまいがちです。

出題者の予想に反してエジプトを選択するチームが多く点数は伸び悩んだ一方、アメリカやイタリアを選択したチームには手堅く得点を稼ぐチームが比較的多くなりました。またアメリカを選択した際に最も大きな壁となるであろう拒否権の正当化についても短い字数制限の中でまとめられている答案も見受けられました。

### 【3】

#### 問1

（問題文） UNFCCC からパリ協定に至るまでの議論の流れについて、COP3・15・17などを踏まえつつ、以下の〈資料3〉（特に p.3, 4, 8, 11, 12, 14, 22）を参考にして、特に「差異化」や「緩和」などの争点を意識しながら説明しなさい。なお解答には以下の用語を少なくとも1度は使用すること。 （600字以内）

#### 〔用語群〕

京都議定書第2約束期間、共通だが差異ある責任、温室効果ガス排出量削減義務、法的拘束力、附属書I国、各国提案方式、市場メカニズム

問題は国連気候変動枠組み条約からパリ協定に至るまでという20年以上に及ぶ長期間の議論を要約するもので、かなりの難易度であったため「COP3・15・17」への注意喚起や指定語句による誘導を施しました。この問題に解答するには、こうした誘導を上手く使いながら資料中の情報の取捨選択を行い、不足している情報については自力で補いながら1つのストーリーを再現することが肝要となります。

COP（すなわち締約国会議）への誤解、京都議定書第二約束期間設定に関する誤認識も一定程度見受けられたものの、COP3や京都議定書に関する記述は粒ぞろいでした。大元のUNFCCCやCOP15、コペンハーゲン会議などに関する記述が不十分なものや、とりあえず名前を列挙しているようなものが多く、差がつくポイントとなりました。

## 問2

(問題文) 昨年9月、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、その成果文書として、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。この中で「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」として、今後の開発分野における国際社会共通の目標が示されました。

さて、SDGsには17のターゲットがありますが、そのうちの一つに「気候変動への対応」(ターゲット13)があります。この目標を世界的に達成するにあたり、日本政府として、日本の強みを生かして具体的にどのような支援を打ち出すことができるか、あなたなりに述べなさい。ただし、その支援が日本にどのようなメリットをもたらすかについても言及すること。(1000字以内)

模擬国連会議において重要である政策立案を答案として再現してもらおうという意図で作問いたしました。ターゲット13「気候変動への対応」および「日本の強み」を明確に示した上で、自身の挙げた「日本の強み」を活かすような形で、具体的かつ論理的に日本の支援策を打ち出しているかが鍵となる設問であります。

ターゲット13の内容にまで踏み込んでいる答案はごく一部でしたが、非常に多くの答案が日本の強みをしっかりと明示していました。1つの分野に絞ったうえで豊富なりサーチ量を活かして具体的な数字や試算を用いた答案や、譲歩や再反論といったテクニックを駆使しながら論理的に訴えかける答案など、高校生らしい柔軟な発想と説得力に富んだ答案が多く、採点してはっとさせられることも多くありました。